

# 余語翠巖老師 香語 (訓読)

薰風狼藉す門良の畔 手を信<sup>の</sup>べて撮<sup>の</sup>し来る桐谷の辺<sup>ほと</sup>り  
短を超え長を越ゆ天地の宝 大山 自ら<sup>おのずか</sup>重し乾坤の禪  
恭しく惟れば

新般涅槃佛真寺開山桐谷三世

大山博雄大和尚真位

教界の木鐸 宗門の大仙

<sup>そのかみ</sup>昔日 生を下野に享け 生を示して不生を現<sup>く</sup>ず  
<sup>こんぜ</sup>今世 滅を桐谷に示し 滅を証す不滅の辺り

駒澤に螢雪の功を積み 研鑽すること歳あり

叢林の夢を諸嶽に結び 眠り足ること多年

更に白雲老門の庭に遊び 光龍門下の学 悉く<sup>おむ</sup>畢る

ここにおいて白純老漢の室中に驪龍含下の玉を奪得す

高く鉢<sup>はつ</sup>囊<sup>のう</sup>を桐谷山頭に掛け 拄<sup>たす</sup>杖<sup>せう</sup>を拗折し

黃冠振揚つて離俗の操を桐谷に  
招致難長を地裏大山自重純神

兼備

新設涅槃佛堂香南山桐谷三三

大山宿禰大和尙復位

教興木鐸 宗門大仙

昔日 嘗生竹常仙 示生不生現

全也 示滅於桐谷 証滅不滅也

核駒淨筆堂切 研鏡有奉

經書林夢稿 眠足与佳

更儲自雲を一庭 走能つ下苦寒軍

於是自就を漢玄下真得獨能言不玉

高掛鉢象桐於山臥 柳折拄杖

更飛錫杖玉つて伴負者

隔と半海道陽神甚各地圖

能如身何 現成公東致多是事

是與不是 詔裁長短不覆前

六十五年の生涯今也 此斗雲飛

喝

石人踏雪去

木馬六十年

更に米国に飛錫して佛真寺を開く

もろもろ廻りて禅道場を開き 佛光各地に圓かなり

如是の法に游んで現成公案商量歿おほんぬ

是と不是と長短を超越して覆蔵せず

六十五年の生涯 今や北斗裏に蔵す

時節過ぎて人いづくんぞ追尋することを得ん

喝

石人 雲を踏んで去り

木馬 火中に嘶いひなく

# 弔辞

曹洞宗宗務総長 伊 東 盛 熙

ロサンゼルス禅センター仏真寺主任開教師前角博雄大和尚の葬儀に際し、謹んで真位の増崇を祈念いたすものであります。

惟うに師は道念厚く開教四十余年の永きに亘り常に宗門の禅の昂揚に精魂をそそがれました。

昭和三十年十一月二十五日開教師の任命を受けアメリカの両大本山別院禅宗寺に赴任せられ、約十年の歳月の後、禅センターを興し現在のロサンゼルス禅センターの礎を築かれました。当時師を慕って多くの若者が集まり禅ブーム興隆の一大拠点として社会の注目を集めることとなったのであります。

師のもとからは多くの優秀なる人材が輩出し、現在リーダーとして各地で師の教えを実践修行されておられます。また師の活動は広くアメリカ国内はもとよりメキシコ、イギリス、オランダ、ドイツ、ポーランド、またオーストラリアにまで及び、まさに世界的活動といえるものであります。

また一方、学術面においても黒田インスティテュートを創設し、八冊にも及ぶ英文による学術書を出版するなど、積極的に曹洞禅の国際的参究に貢献なされました。

さらに近年は宗務庁主催の伝道教師研修所の主任講師を三回にわたりお勤め下さり、いわば永年の懸案でありました外国での指導者育成の端緒をお開きいただいたわけであります。

特に法灯の伝持を強調された師の教えは、宗門の命脈として北米修行の原点となることでありましょう。

このようにそのご生涯の大半を海外での曹洞禅の布教に挺身せられたその功績は、計り知れないものであります。

しかしながら、この度の突然の悲報に接し、わが宗門の損失大なるものを感じ、一時茫然とする思いでありました。まさに北米曹洞禅の新時代を迎えるこの時、師を中心にその展開がはかられるであろうことは、誰の目にも明らかなことでありました。国内外の師を知る方々の嘆き悲しむところでもあります。返す返すも師のご遷化に痛惜の極を抱かざるえない次第であります。

今はただ、生前の道業に対し深く深く感謝申し上げ、老師の大寂定中安らげきを念じ、謹んで弔辞といたします。

一九九五年五月二十日

# 惜別の辞

駒澤大学教授 鈴木格 禪

米国 ロサンゼルス禪センター・佛真寺主管前角博雄老師。

あなたが正法眼蔵についての件で御電話を下されたのは、おかくれになる僅か二日前のことでありました。

そのあなたのお聲の温もりが、まだ私の耳の底に親しく残って居ります。そのお聲の温もりのいまださめやらぬ間にあなたは、突如化を他界に遷されてしまいました。享年正に六十四歳、あまりにも早い御遷化であります。

あなたは急ぎ現世を去って彼の地に赴かねばならぬ使命がおありだったのでしょうか。

あなたは御両親様の誇りであり、御兄弟の皆様の光であり力でありました。

あなたは若き日遠く米国に開教し、幾多の困難を乗り越えて独自に佛法の道を切り拓かれて参りました。

そしてその法燈は今やひとり米国のみならず欧州にも伝えられて、力強く根を下ろし展開しようとしている矢先でありました。

至誠熱血の人 博雄大和尚

あなたは不毛の異国に仏法の眞實を擔われた大いなる伝道の勇師でありました。その突然の御遷化はまさに仏法開拓の戦場における壮烈な戦死であるということができま

宗門は惜しい人を失った。あなたの新しい佛法を伝うべく旅立たれたのでしようか。それとも大寂室中に坐してしばらくの憩いとられるのでしようか。

あなたの御遺影を前にして私は今痛哭しつつ、あなたの御魂の遙かなる雲の上の旅路の永久に安かれと、至心にお祈り申し上げる外に為すべを知りません。

ああ畏友 佛真博雄大和尚の御魂よ 永遠に鎮りませ

永久に鎮りませ

さようなら佛真博雄大和尚

平成七年五月二十日

鈴木格禪謹んで追悼申し上げ

# 弔辞

駒沢女子大学副学長 東 隆 眞

謹んで、桐ヶ谷寺東堂、仏真寺開創、故前角博雄老師の御真前に弔辞を捧げます。

五月十五日朝早く、善光寺黒田老師よりお電話が入り、今朝午前一時、前角老師が急逝されたとお知らせに、私は呆然自失ことばを失ったのでありました。

ちようど一週間まえの五月八日、私は桐ヶ谷寺様で前角老師を中心に善光寺黒田老師、桐ヶ谷寺黒田老師をはじめ関係のみなさま方とお会いしたばかりでありました。そして前角老師と打ち合せをいたしましたのであります。

その打ち合せというのは、本年七月下旬に十日間ばかり、私は善光寺黒田老師と一緒にアメリカの前角老師のロサンゼルス禅センターをはじめとする参禅道場、カリフォルニア大学などを歴訪し、かの地の禅を学ばせていただくことについての日程の検討でありました。打ち合せもとどこおりなく終り、そのあとは前角老師をかこんでお食事の一刻をもたせていただきました。それは実になごやかでたのしいふんいきの一刻でありました。その時、老師は一枚の女性の写真を見せてくださいました。

「おや。美しいお方ですね。もしかするとお嬢さんですか」と申しますと、老師は少しはにかんだような、少してれたようなやさしい表情を見せました。

私は、そのやさしい表情をけっして忘れることはないでしょう。

私と善光寺黒田老師とは、前角老師とのお約束どおり本年七月下旬訪米行脚の旅に出発する所存です。悲しいことに、これは前角老師追悼の旅、前角老師ご遺跡巡礼の旅となつてしまいました。しかし、これも前角老師のご遺志に従うゆえんかとうけとめております。

ご承知のとおり、前角老師は、明晰なる頭脳と、不撓不屈の精神力と、燃えるがごとき道心と、名利を捨てきつた愚のごとき魯のごとき大誓願心とを抱いて、第一に曹洞、臨済の家風を究め尽くされ、第二に、単身アメリカにわたつて四十年、みずからもアメリカ国籍の人となつてアメリカ、ヨーロッパの各地に正伝の仏法を普及され、第三に禅センターや寺院を次から次へと創設され、日本人以外の信者や法嗣（後継者）を多数育成され、第四に、黒田インスティテュートを創立して、みずから道元学会を主宰し、禅の国際的交流や禅の研究に関する便宜を促進し、ハワイ大学の協力をえて摩訶止観、伝光録、十王経そのほかをはじめとする八冊もの仏教書の英訳本を出版して、世界的なレヴェルで学術的貢献をなされ、第五に、横浜善光寺留学僧育英会の顧問として、春秋に富む若い留学僧たちのご指導にあたられたのであります。

前角老師のご業績は、永遠に不滅であります。老師のおこころをこころとして、老師の



薫陶を受けた多くの老若男女たちは、いよいよ仏法興隆、世界平和のために努力精進されることでありましょう。

前角老師のご指導、ご懇情に哀心より感謝申し上げますとともに、老師の大誓願心にみちびかれて、仏法興隆に向って努力する決意を新たにしますのでございます。

前角博雄老師。ほんとうにありがとうございます。ありがとうございます。

合掌

平成七年五月二十日

# 弔 辞

桐ヶ谷寺檀信徒總代 齋 藤 稔

前角御老師の悲報を桐ヶ谷寺の方丈様より御知らせを受け、あまりにも突然の事に只呆然とするばかりで御座いました。

御老師はアメリカ、ロスアンジュルスを始めアメリカ各地に於て佛教界のために広く布教活動を永年に亘つて精力的に努力されまして、佛教界の爲に大きな貢献をなされました。その活動の拠点となったロスアンジュルスには、私共が想像した以上の規模の大きさとアメリカ国内に於ても有名な数多い信者の精進ぶりを目のあたり拝見いたし、御老師の佛教界の爲になされた大きな努力とその成果に、心から敬意を表するものであります。私事ではあります。が昨年私の姉を亡くしました折に、桐ヶ谷寺で葬儀を行いました折に偶然にも御老師がアメリカから桐ヶ谷寺に来て居られました。葬儀の御導師を御引受け下さったのが、今も忘れる事が出来ません。そしてその折も親しく御話をして戴いた事を想ふとこの度の訃報があまりにも突然の事で信じられない気持ちで一杯です。

御老師の佛教界に於ける熱意と貢献はアメリカに於ても大きな評価を得て昨年その功績

に対しアメリカ国より表彰を御受けになりました。この様に内外の佛教界に大きな足跡を残された御老師を失った私共は悲しいばかりの只々残念の極みでございます。

御老師が生前私共に御与え下さいました佛心を心に深く刻んで精進をいたして参る覚悟で御座います。今は只亡くなられました御老師の御冥福と、アメリカに残された奥様御子様方の御落胆と御傷心の回復が一日でも早いことを念じて居ります。

御老師様どうか安らかに御眠り下さい。

合掌

平成七年五月二十日

## 前角博雄大和尚略歴

昭和六年二月二十四日、栃木県大田原市光真寺三十六世黒田白純大和尚次男として生まれる。

駒澤大学卒業。曹洞宗大本山總持寺安居。原田祖岳老師門下、安谷白雲老師並びに臨濟宗禾山派定光老師門下苧坂光龍老師の室に入って大事を了畢。黒田白純老師に嗣法。桐ヶ谷寺三世となる。

昭和三十一年ロサンゼルス禪宗寺駐在開教師として渡米。ロサンゼルス禪センター佛真寺、並びに陽光寺を開創。さらに黒田インステイチュートを設立し、学長に就任す。その他ニューヨークに禪真寺及び道真寺を開山。フランスに法玄寺を開山。オレゴンに地藏院を開山。その他、メキシコ、ポーランド、ドイツ、オランダ、イギリス、オーストラリア等、世界各地に禪道場を建立し、禪の高揚に努め現在に至る。多数の外国人の嗣法の弟子を育てる。

平成六年、日米文化興隆の功績を認められ、前角老師及び白梅会に対し、ニューヨーク州立大学よりハリス賞を授与される。

平成七年五月十五日、東京桐ヶ谷寺に於いて示寂。六十五歳。

## 住職地並びに開山地

桐ヶ谷寺三世

ロサンゼルス禅センター佛真寺二世

禅マウンテンセンター陽光寺二世

禅コミュニティ オブ ニューヨーク禅真寺開山

観世音サンガ ワサチ禅センター法真寺開山

禅マウンテン モナストリー道真寺開山

禅コミュニティ 地藏院開山

## 遺弟並びに法孫

徹玄グラスマン・禅コミュニティ オブ ニューヨーク 禅真寺住職（ニューヨーク）

玄法マーゼル・観世音僧伽 ワサチ禅センター法真寺住職（ユタ州）

大道ローリー・禅マウンテン モナスタリー道真寺住職（ニューヨーク）

澄禅ベイズ・禅コミュニティ オブ オレゴン 地藏院住職（オレゴン州）

獅心ウィック・メキシコ禅道場

徹心サンダーソン…オレゴン禪道場

実道アンチエタ…

天心フレッチャー…

如玄イオット…

妙融アンダーソン…

浄光ベック…サンタバーバラ禪道場

慈鏡ミューラ…

その他、出家得度の弟子五十数名、嗣法終了の法孫数名、授戒の弟子八百余名

---

## 思い出のアルバムから



昭和60年 ニューヨークマウンテンセンターにて



了然尼と共に 一九九四年の夏の終り

隠寮にて(禅センター)



一燈園  
石川洋先生と共に

